



いながき

## 170億の超大型予算に!

## 子ども手当・新駅で、過去最大の編成



いとう

個人所得の大幅な減収や企業収益の悪化により国税同様、吉川市でも市民税は減収(前年 6.8%減)。しかし民主党政権の目玉、子ども手当 14 億 4,700 万円や地方交付税も増額し、吉川では新駅の工事負担金 11 億 9,800 万円も加わり、一般会計予算は 170 億 5 百万円に。国保や介護保険、下水道事業等の特別会計を加えると 273 億 1,989 万円の大型予算となった。

新駅を始め小学校体育館の耐震化に着手、駅南の新設小学校の基本設計、大型公園(駅南調節池・中央土地調整池)、新栄地区の道路補修事業等も大きく進展をします。

## 「たねしげニュース」新聞折込で全戸配布!

市長後援会 2 月 4 日発行の「たねしげニュース」が新聞折込で全戸配布された。

3 月議会でもまだ提案も審議もされていない時点にも拘らず、22 年度の事業・施策の内容が具体的に提示されていたことに違和感を覚え、一般質問で取り上げた。事実関係を明らかにするとともに、その背景にある「おごり」や「公私混同」について質した。

質疑の中で市長は「例年は 1 月に出していたが、今回は 2 月に発行した。掲載内容はいつもと同じ構成で、新たな年に向かって私がガンバッテ行きたい政策を述べた。」「新聞折込の配布は、公職選挙法に抵触するものではない。」「公私混同とは考えていない」と答弁。

## 「おごり」・「公私混同」ではないのか?

平成 22 年度施政方針や予算の中で審議される内容を、個人の後援会ニュースで明らかにすることは市長としての「公」の立場と、政治家である「私」の立場を混同しているのではないのか。最も情報を持っている者が、その情報や権力を私的に使うことは許されない。『李下に冠りを正さず』の戒めに従い、より注意して行動すべきではないだろうか。

市民に対し、施策や予算について意見を求めるのであれば、それは市として行うべきである。

議会とは違った角度から市民の生の声を聴き、事業や予算に反映させることは必要なことと考える。

予算の編成過程をホームページで公開したり、議会開会前に市民懇談会を開催する自治体もある。

## 向き合うべきは市民、住民福祉の増進

市長は、「掲載した記事の収集は自らが行き、後援会で作成した」としているが、ニュースの中で使用された写真のほとんどは職員が撮影したものであり、紙面のつくりも市の広報と似ている。

今、市長が向き合うことは、さらなる行財政改革の推進であり、新駅を中心としたまちづくり、保育所の待機児童解消、使いやすい介護保険、高すぎる国民健康保険等の行政課題解決に取り組むことである。

最小の費用で最大の効果を挙げる市政運営である。次の選挙準備をやっている時ではない。

「公務」とは、全市民へ向けて最大限の努力をすることではないか。

いながき・いとうの

## 3 月議会報告

3 月 28 日(日) 午前 10 時 30 分～

おあしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町 782 番地 1C-1101 TEL 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野 2-8-2 TEL&amp;FAX 983-1117

Eメール itoh72@nifty.com

\* 市民改革クラブ ホームページ開設 \*

http://www.geocities.jp/kaikakuclub

## 代表質問・一般質問 主な22年度事業 いながき 茂行

21年度補正予算で、市内小中学校舎の耐震化・大規模改修は完了。今年度からはいよいよ「体育館」へと移る。災害時、住民の避難場所ともなる体育館の耐震化・改修について確認しました。

22年度は小学校5校の耐震診断を実施。耐震性の低い体育館から工事を進め、27年度までに完了する計画です。

駅南区画整理地内の「新設小学校」は25年4月開校の予定。一万八千㎡の敷地に普通学級24クラス、吉川小学校と同様の複合施設を想定。22年に基本設計、23年土地購入、23・24年に建設の予定です。

### 保育所の待機児童 解消への取組み

4月一日から市立保育所へ入所を希望する申込者は255名。入所が内定した方は167名で入所出来た割合は65.5パーセントでした。

ここ数年、真剣に働きたいの思いで、保育所への申込みをされる保護者が増えています。

市長は「特に、一才児保育が急増している。定数の弾力化を活用し、最大限確保しているが待機児童解消には至っていない。新たな保育所整備へ向け、民間保育園への支援に努める」と表明。深刻な住民要望に対し、市として積極的に取組むべきで、今こそ選択と集中を実行するときはではないでしょうか。

### 食育推進計画は 地道な取組みを

以前より求めていた吉川市の食育推進計画(原案)がまとまり、22年から26年までの施策・取り組みが出されました。基本目標は、心豊かな人づくり・生涯を通じた健康づくり・生産者と消費者の顔が見えるまちづくりです。

今年の取組みはまず、市民への関心を高めてもらうための事業として「食育フォーラムの開催」「食育マップの作成」を始め「地産地消」では、学校給食での

吉川産食材の活用や農業生産地を巡るウォーキング大会の開催などが実施されます。

名前や形ばかりの食育ではなく、健全な食生活を通じての健康づくりと食文化の継承のため、生活に根ざす知恵や技を地道に伝えることが大切だと思います。

### 治水対策の推進を！ 栄町・保・南中周辺は

これまで何度も質問・要望・提案してきた、南中周辺・栄町・保地区と駅北口周辺の総合治水対策について確認しました。

市長は「将来的には、調整池を整備していきたい。短期的には、駅南調節池が22年完成することから、第二大場川の水位上昇が押さえられることで被害の軽減がつながると考えている。」また、駅周辺については、「共保ポンプ場の整備を国に要望するとともに、木売り落しの雨水調節機能を活用し、被害軽減に努める」と答弁しました。

3月議会は2月26日から3月19日まで開催。全28議案を審議し、全議案を可決。

### 代表質問

第四次総合振興計画の後期重点テーマ4項目を中心に質問。また、市長3期12年の最終年度にあたり総括と決意を伺う。(稲垣)

### 予算・議案審議

3月3・4日  
市条例の一部改正(職員定数・職員給与・公益法人への派遣等)、さつき園条例廃止の他、22年度予算及び21年補正を審議。

さつき園・おあしすの移行、駅南小学校、新設公園、中央区画整理事業等について質問(稲垣)。  
副市長選任、武操跡地周辺整備事業、緊急雇用対策等(伊藤)

### 委員会審査

今年度より、文教福祉委員会に(伊藤)、総務水道委員会に(稲垣)が所属。3月8・9日開催、それぞれ詳細に質疑。

### 議案―討論・採決

3月16日。  
22年度予算について(伊藤)が討論。提案、要望、指摘し賛成へ。

### 一般質問

「たねしげニュース」、市長のリーダーシップ、社会福祉協議会の拡充・活用について。(稲垣)

新駅とまちづくり、税収増対策と行革、公務。「生徒のトイレ破壊事件」、建設・道路行政等。(伊藤)



# 予算 国策反映で大型 市民に根ざして!

いとう 正勝

吉川市の22年度当初予算は170億5百万円。(前年度比9、1%増)国民健康保険特別会計64億7千万円など6つの特別会計を合わせた予算額は273億1千9百万円の規模。▽このうち新規の「子ども手当」は14億4千万円余を計上。これを加えた民生費(福祉)は22、4%増の59億円余。▽学校の耐震・大規模改修。太陽光発電やデジタル化対応など小、中学校(主に北谷小、三輪野江小、南中)整備・工事。調査費は今回の補正予算をはじめ1年前の3月補正から通算すると20億円に。▽地域活性化や緊急雇用対策等をはかるための臨時交付金。吉川では都市計画税4億3千万円も見込み、市民に身近な道路(新栄など)公園(中央土地、駅南など)、区画整理事業など基盤整備が進むことに。▽おあしす

の「民営化」も4月からスタート。図書費が倍増、サービス向上と予算削減の両立なるか注目下さい。

## 予算、報酬・給与は 公金であり税金

「子ども手当」は民主党政権が「公約」通り23年度月額2万6千円の支給を実現すると吉川市だけで「32億4千万円」の巨額に。国の一般会計の予算は92兆円のうち税収は37兆円。一方で借金に当る国債は44兆円にのぼる異常さ。政権中枢だけでなく、吉川市の行財政運営についても使命と役割は一段と重くなっている。予算、報酬、給与。すべて公金であり税金で賄われている。相対的貧困率は全国平均で15%を超え、吉川でも生活保護世帯の増加、要保護、準要保護の学童(5百人余)の増加。その一方で市税徴収の強化、差し押さえによる強制徴収は年間500件をこえる。効率的、効果的に。市長、議会、職員は引き締まった姿

勢で取り組まなければならぬ。

## 旧吉川保健所の 「保育所」への活用は—

▽子ども手当(1万3百余人)の支給に万全を期すとともに、▽待機児童(保育所だけで103人)の解消についても定員の枠にとらわれず、柔軟な受け入れ策を検討してほしい。▽旧吉川保健所は未利用状態。保育所としての活用など有効利用をめざし県と協議してほしい。▽緊急雇用政策は防災パトロール、駐車場管理など15事業に79人を雇用。6,800万円を計上。21年度の65人を含め、その有効性の検証作業を。市民意見の聴取や反映の仕組みについても検討を。▽吉川新駅、武操跡地。新設の小、中学校。新トンネル、吉川橋など国、県の事業にも目配りし、市民に根ざした予算の活用を指摘要望しました。



## 「おあしす」に注目!

「おあしす」は4月から「民営化」へ。図書館流通センターなど3社がJVで当面5年間の事業を担うことに。年間経費1億8千2百万円の予算を承認。このうち図書館は▽図書費が2倍の1,380万円に▽新聞、雑誌、週刊誌コーナーの充実▽常勤職員は6人。これまでの半数▽臨時職員は司書資格者14人(2人)を含め総計32人(22人再雇用)。▽臨時職員時給は800円から930円、950円に改善。▽さわやかな接遇。会館は明るく清潔を心掛けるのと。

「西のおあしす」に。吉川小学校の全面改築に際して、100年の計であり「公民館分館」も移設して「西のおあしす」として緊急に提案。市長、市教委幹部の「太っ腹」もあり、市民集会を開き再聴取。当初設計に「公民館分館」移設が加わり、音楽教室など特別教室の1階への設置。屋上プールなどが変更、実現へ。学校にも隣接住民、利用者にも喜ばれ活用されている—との総括的評価(3月議会)。

「南にもおあしす」を。駅南に25年度新設小学校の計画。複合式との方向は固まったが詳細はこれから。住民も知恵を出し、愛着と誇りのもてる、全国のモデルとなる設計に期待。私たちが一緒に提案していきま

# 吉川高校全日廃止問題 全日併設で決着!

2月18日(木)、県教育委員会は吉川高校の全日課程の存続を決定しました。

吉川高校の全日・定時課程、草加高校の定時課程を統合し、新たな高校を現在の吉川高校へ設置することになりました。

新たな高校はⅠ部(全日課程・定時課程、午前～午後)、Ⅱ部(定時課程、夜間)の二部制による総合学科となります。要は、Ⅰ部(定時課程、午前～午後)に「全日」を置くというもので、定時の一部に全日を設けるのは今まで例がなく、新たな試みとなります。

吉川高校は平成24年度まで生徒募集を行い、新たな高校は25年度からの募集となります。

今回の決定を受け、3月9日(火)第5回市民会議を開催。「全日存続を求める市民会議(30団体)」は解散し、これからの吉川高校を支援する取組みを行うことを確認しました。

県教育局が再編の理由に挙げた「中途退学者や進路が決まらないまま卒業する生徒が多い」との指摘についても、問題解決への取組み、支援を行っていかねばなりません。

私たちが誇れる吉川高校になるよう、一層のお力添えをお願い致します。(いながき)

## まだ「懲罰」ですか?

あなたには「言うべきことをいってもらいたい」「背筋をのばして頑張る」と地元育ちの有力者や古者から叱咤激励を受けた。「税金が不公平」「国保が高い」ときつい言葉を浴びたのはつい先頃のこと—こうした声を背に今回も質問に立った。

▽市広報まがいの「たねしげニュース」。公設の秘書3人の役割は—。新年会やまつりなどへの市長接待要請も秘書の仕事のうちかと問うたところ、そのようなことは「絶対ない」と市長は顔をこわばらせた。その時議場の古参議員から「また懲罰だぞ!」「誰が言ったのか!」との声が飛んできた。

▽三輪野江バイパスが20年余を経てようやく開通へ。三郷側への結節が出来ず、県担当者もお手上げ状態の頃、この問題を議会で取り上げた。多角的な取材にもとづいて、「三郷側と話し合いもしていないのでは—」と指摘したところ「誰が言ったのか」と古参議員から取り消しの動議が出てやむなく発言を取り消した苦い思い出が頭をよぎった—。元町長の「三郷側と話もしないのが吉川の気風」との話や当時の三郷市長にも面会し確認した上での発言だったが、多数の横車にその時は押し切られた—。

▽「取材源は明かさない」「何より正確な情報」—そのための多角的、客観的取材調査の積み重ね。その頂点で仕事をしてきた自負はあるものの、一方的に取材源を明らかにせよとの多数派の要求には何度泣かされたことか—。住んでいる世界の違いにあきれ、驚きの連続だった。▽三輪野江バイパスについては旧知の建設省政務官室(当時)で道路課の責任者と会い事情を説明、前進へ協力をお願いした。出先機関が動き調整し一週間後には吉川市内での結節で決着へ。—そんなこともあった。※市民改革クラブの代表は10月から稲垣茂行氏にお願いしました。(いとう)

### 編集後記

まる2年が過ぎた。38年のサラリーマン生活から市議会の議員へ。全く違う環境での経験は驚きの連続で新鮮だった。

会社にはいた頃、わが社の常識は世間の非常識と言っていたが、議会の常識、役所の常識はまた一味違う。私の常識は小売の世界でしか通用しないかも知れない。

何よりも早さが要求され、全てに分かりやすさが求められた。

四の五の言っている間に商機を逃しては元も子もない。読んでもらえない資料は要らない。聴いてもらえない説明はダメと。改善・改革を続け、成果がなければ給料もボーナスも下がる。

市職員はまじめで有能な人達が多い。でも、資料は分りにくい。時々、わざとやっているのではと思うこともある。妙な役所言葉をちりばめた説明も少し変。決定的に違うのはスピード感だ。検討、研究とは何年先の実施なのか?

それでは、議会はどうかんだ!と聞かれたら、返す言葉もない。平成22年春、いよいよ



桜の開花。  
(いながき)